

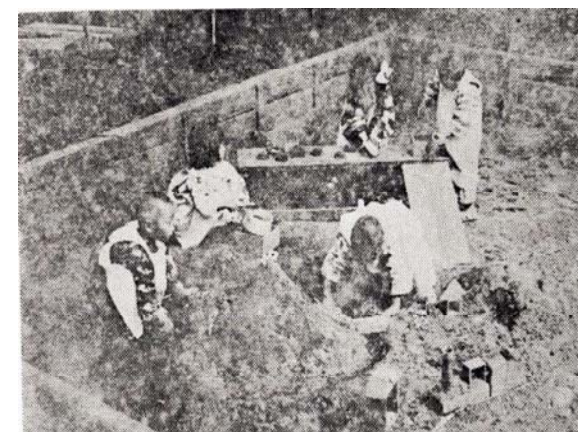
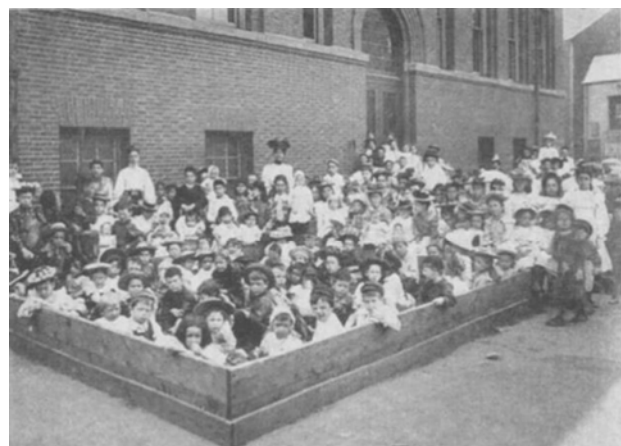
公園砂場の復活による

子どもの心身の発達・素敵な親子関係・地域の活性化を可能にする

公園砂場イノベーション 高床式「木製浮き砂場」

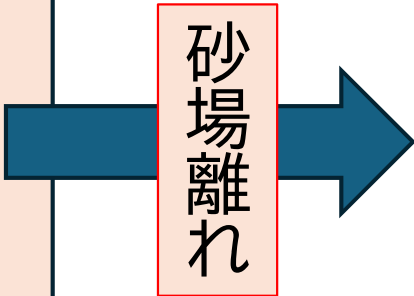
1885年、ボストンのスラム街に創られた全米初の砂場（Sandgarden）は、子どもたちの心身の健康の回復に大きな影響を与えた。すぐに砂場は、ニューヨーク、シカゴなどの大都市に次々と広がり、ブランコやシーソーなども一緒に設置される。これこそ、児童公園の始まりであり、プレイグラウンド・ムーブメント（子どもの遊び場づくり運動）として、世界に伝わった。

日本における砂場は最初幼稚園から始まり、戦後になって児童公園の必置遊具としても位置付けられ、誰にもなじみのある、そして何よりも子どもたちが大好きな公園遊具として存在した。



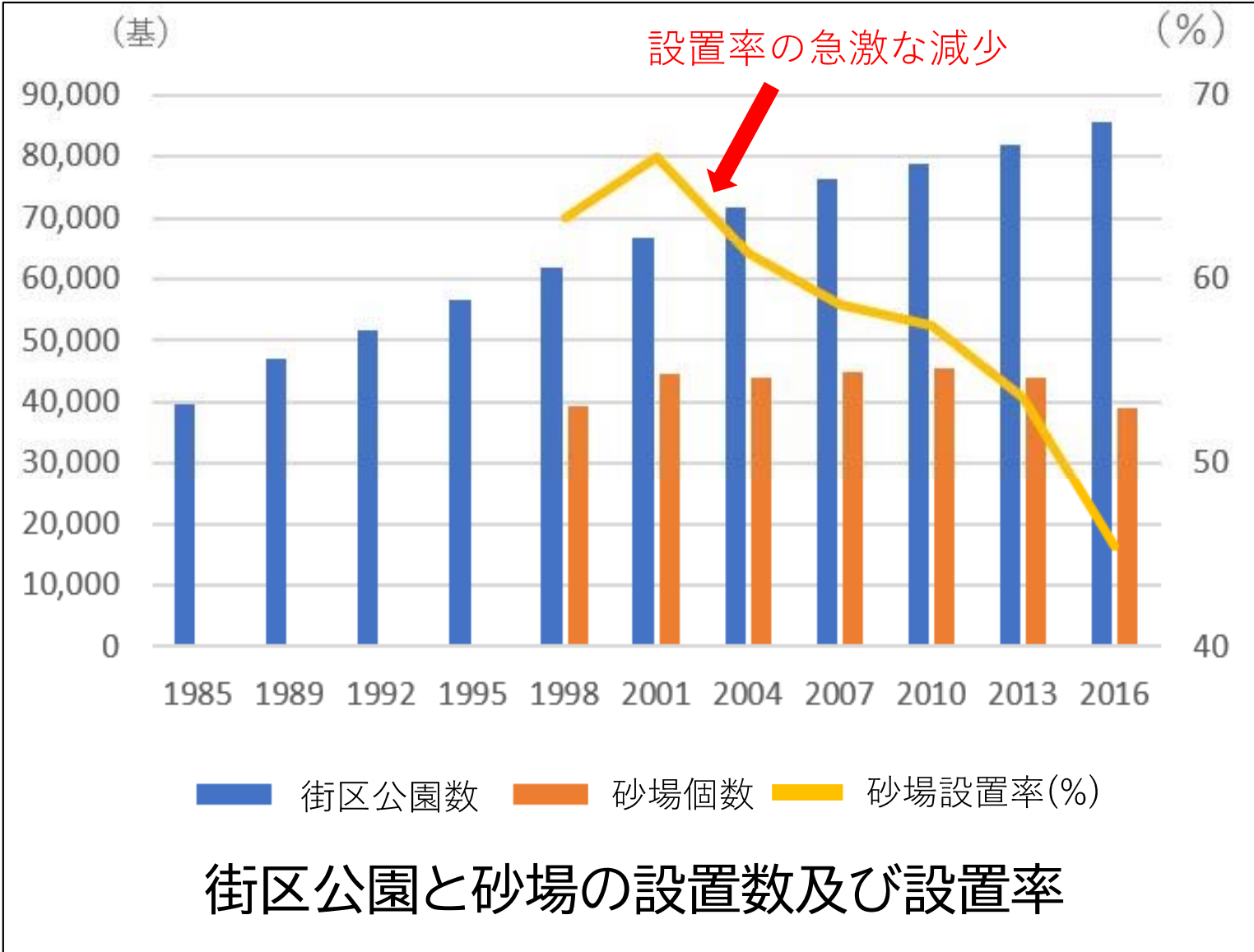
…ところが、今日の日本における公園砂場が抱える問題点

- 砂場が抱える問題点
- 砂が汚い
 - 犬猫の糞尿による汚染
 - 砂がカチカチ
 - 砂が少ない
 - 冬場は砂が冷たい
 - 手足や衣服が汚れる
 - 砂遊びの意義への無理解



公園の新規設置やリニューアル時に砂場がどんどん消えていき、残っている砂場も風前の灯火

一方、「砂場環境がよければ我が子に砂場遊びをさせたい」と思う母親が7割越え
 (ボーネルンドによる母親意識調査2013)
<https://www.bornelund.co.jp/contents/uploads/sites/2/2016/03/131015.pdf>



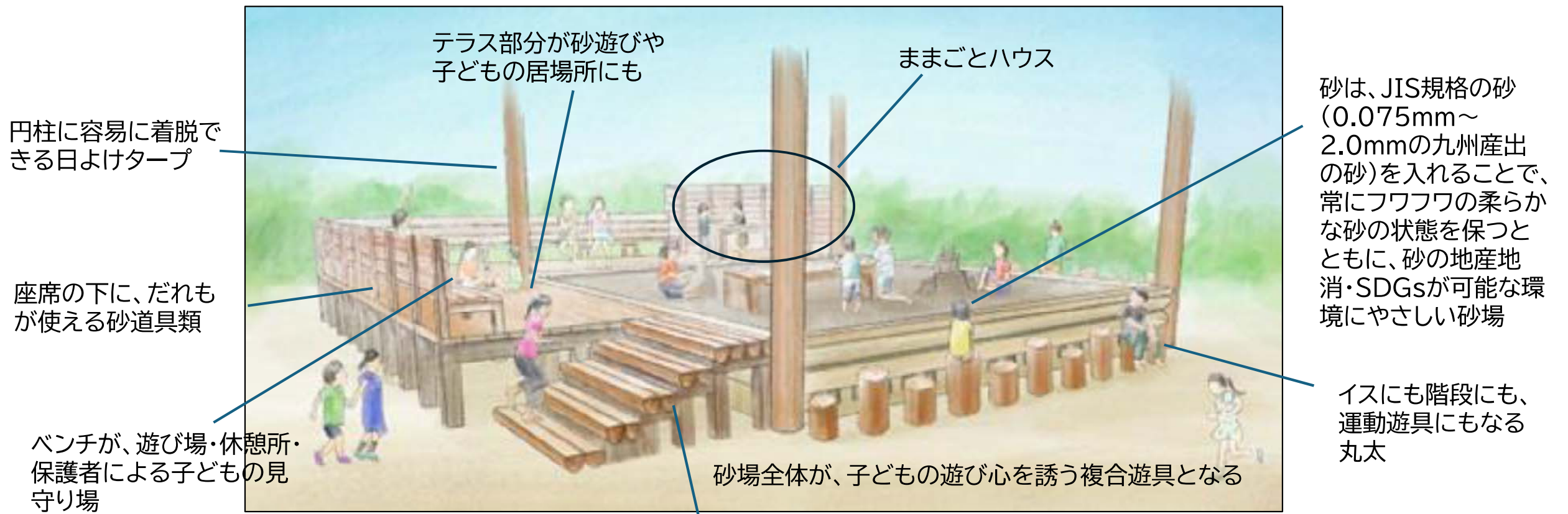
提案

問題解決を図る新機能を持つ次世代型砂場

高床式「木製浮き砂場」

衛生的な砂場自体が、木製の複合遊具に

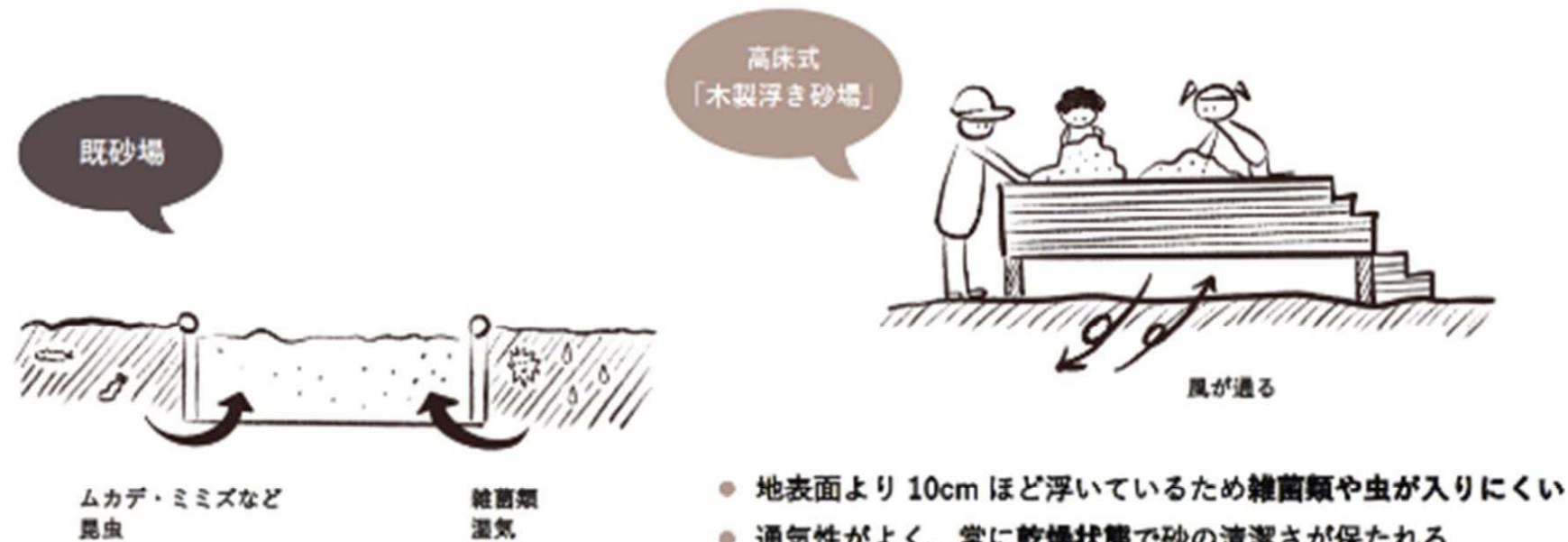
砂場底面が地面から5~10cm高く浮き上がることで、常に清潔さを保つことができます！



階段による子どもの運動量増加

(イラスト：岡本愛加・多摩美術大学)

高床式「木製浮き砂場」は、なぜ清潔？

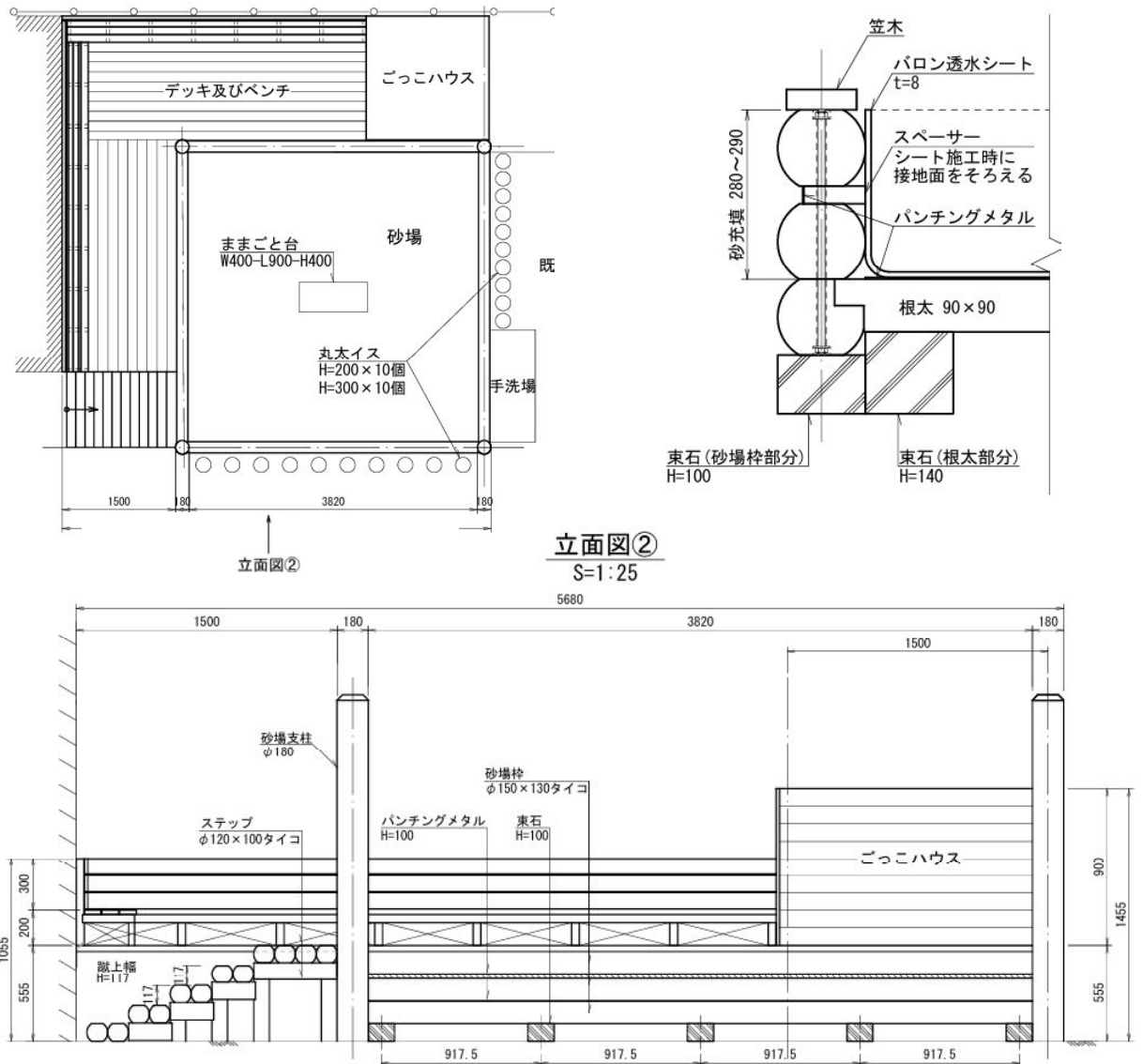


(イラスト：岡本愛加・多摩美術大学)

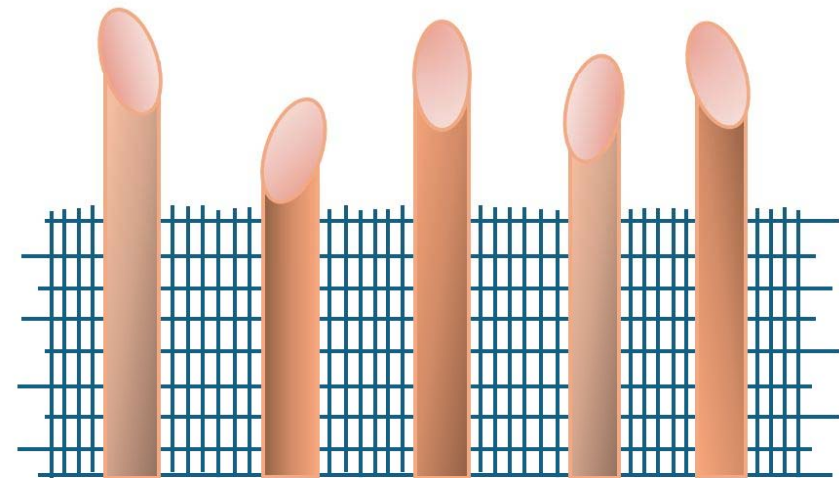
衛生を保つ特許申請中の砂場の改良点

高床式の「木製浮き砂場」

高床式砂場の構造(一例)



砂場の周囲も、小動物の侵入を防止するための木の柱とメッシュフェンス柵を設ける



+

柵の一部にオートヒンジ付き開閉扉を設けて子どもたちが出入りできるようにする

(木材には防腐・防蟻処理を施す)

子どもたちはなぜ、砂場遊びが好きなのか？



砂遊びが育てる、子どもの心と体、人間関係

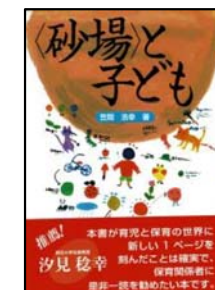
砂遊びは、子どもたちの様々な能力を、楽しみを通して自然に引き出すことが、様々な研究で明らかになっています。

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場に学んだ」

ロバート・フルガム

「砂は最良のエデュケーター」

古くからドイツに伝わる言葉



笠間浩幸著

第5回の本大会で発表した「プレイフルサンドアート」はその後、全国各地で人気あるイベントとして開催されるようになりました。

砂遊びが子どもの発達を促進し、遊びを通じた豊かな親子関係も育っています。



第5回大会で提案した身近な砂場



大阪市都島区に誕生した人工ビーチ

FUKUSHIMA SAND-STORY

こむこむ パラージュ 2024

「やりたいこと」をおもいっきり♪

7/6 土
10:00~15:00

福島市子どもの夢を育む施設
参加無料

みんながサンドアーティスト!
屋外砂場 1階子供ライブラリー前 屋外スペース

さらさら感触を体験してね!
屋内ホワイトサンド 1階にまわし広場

協賛企業様

主催 NPO法人福島SAND-STORY 助成 LUSH 協賛 COOP

NPO法人福島SAND-STORY事務局
福島市八木田字津田94 1階3号フロア
TEL.024-545-7779
MAIL:info@fukushima-sand-story.com

鳴き砂

いわき駅前、浜辺を楽しもう!

(ブランチ)

砂像制作・展示
砂浜ビーチ砂遊び

鳴き砂体験
砂絵体験

いわきブランチ2024

場所:いわき駅前多目的スペース

R6年9月13日(金) 10:30~17:00
開会式:いわき短期大学附属幼稚園

R6年9月14日(土) 9:00~17:00

R6年9月15日(日) 9:00~15:00

フラダンス披露
14日(土)11時~ 平商業高校 14時~好間高校OG
15日(日)10時~ 東日本国際大学付属昌平高校

白砂ビーチ

砂像制作 鳴き砂体験 砂絵体験 砂遊び

【主催】NPO法人いわき鳴き砂を守る会 【共催】NPO法人福島SAND-STORY
【後援(予定)】福島県いわき地方振興局、いわき市、いわき市教育委員会、いわき観光まちづくりビューロー、いわき商工会議所、福島民友新聞社、福島民報社、いわき民報 【協賛】HARIO様



京都府京田辺市は、巨大砂場をもつ公園を町中に建設中 市民が憩える産直カフェと砂場(京田辺市と東レ建設事業部による設置)



おわりに

公園砂場の状況は今、瀕死の状態にあります。
もはや、砂場は古い時代の遺物に過ぎないのでしょうか。
私たちTEAM「サンドガーデン」は、決してそうではないと考えています。
なぜなら、ひとたび子どもたちが砂場で遊びだすと、その集中力と継続性、
「あ、いいこと考えた」と言っては、何かを創り出す生き生きとした姿をいつも見ているからです。
砂場遊びは、テレビゲームに劣らない楽しさを子どもたちに提供するとともに、
むしろそれにはない様々な子どもの能力を引き出す力をもっています。

「木製浮き砂場」は、公園砂場の状況を一変させ、砂場消滅の危機を救うものになると考えます。
もちろん、砂場という物理的存在だけで、そのすべてが改善されるわけではありません。
子どもが楽しく遊ぶ姿を見て、それを守り発展させていこうとする
大人や社会の存在が重要なことは言うまでもありません。
魅力ある「木製浮き砂場」が、そんな社会変革・まちづくりの引き金になることを願っています。

「たかが、砂場」・・・とくると、そのあとにはふつう、「されど・・・」が続きますが、
それは、私たちが言うことではなく、ぜひ子どもの砂遊びを間近に見届けた
皆さん一人一人に感じていただければと願っています。
むしろ、この「たかが」を、今どれだけ豊かにすることが大事か、
砂場に限ったことではない、日常の「たかが」を子どもたちにたくさん保障することが
これからのまちづくりに最も必要なことと思っています。